

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日(№43・よく降りよく照りちらり秋号)

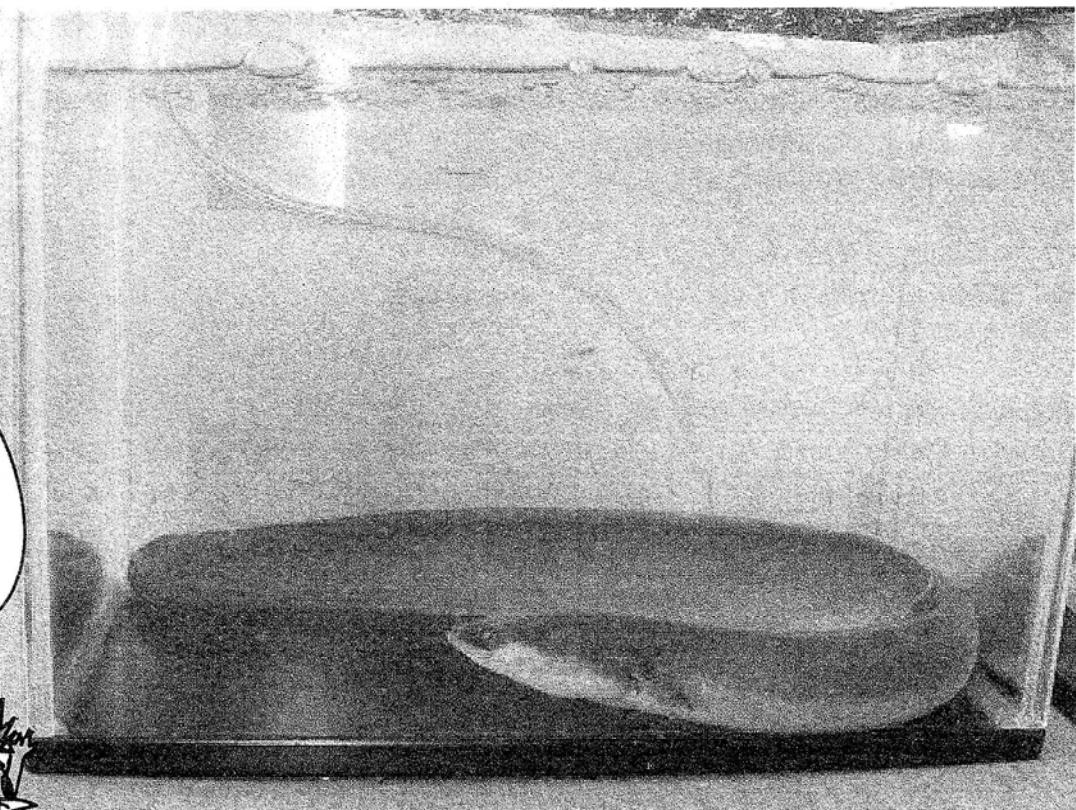
2006
*
9月

NPO法人工エコシティ志木

代表理事 天田 真

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：伊藤 智明

勝手にレッドデータ of 志木 (29)

柳瀬川のウナギ（または蒲焼）

ウナギ (*Anguila japonica*) はグアム沖の深海底で産卵し、3000km の長旅でレプトケパルス、シラスウナギに変態し、川に戻り7~8年で成熟するそうです。写真の大きなウナギは、竹の子エコクラブの子が手網でとったもので、体長は70cmほどでした。お持ち帰りの要望がありました。残念ですが、体長を計測し川にお帰りいただくので蒲焼にはできません。（小島 敏文）

身近な川の一斉調査 2006

新河岸川水系身近な川の一斉調査
身近な水環境の全国一斉調査

06年6月4日(日) 9:00~2:30

主 催: 新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会
NPO 法人エコシティ志木
協力参加: 志木市立宗岡中学校科学部
参 加 者: 18名

新河岸川水系では毎年約50団体で約250カ所の水を調査しています。当会が志木で調査を開始してから11年目、全国調査としては3年目になりました。宗岡中学校科学部と共に、志木市内8カ所の水を採取し、宗岡中学校理科室で測定しました。主要な測定結果は表の通りですが、概ね例年と似た傾向でした。

◆ 各測定項目の右欄に過去5年間の平均値を記入しました。柳瀬川・新河岸川の合流点より上流の各2カ所は合わせた平均値としました。

◆ 今年度は COD の高濃度用試薬が入手できなかつたため、最高値は8以上となりました。平均値計算では8としています。

◆ pH (水素イオン濃度): 7が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。

◆ EC (電気伝導度): 水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多いが、必ずしも不純物=汚れというわけではない。

◆ COD (化学的酸素消費量): 酸化剤を加えて有機物を酸化する時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物による汚れが多い。

◆ 透視度: 透明なパイプに水を満たし、上から覗き込み、中の指標が見えなくなるまでの深さ。

◆ このほか、亜硝酸性窒素とアンモニア性窒素も測定しています。

◆ 大腸菌群は測定していません。

(天田 真)

■ 06年の結果と過去5年間(2002~2006)の平均値 柳瀬・新河岸合流点の上流は各2ヶ所を合わせた平均

採水地点	測定項目		水温(℃)		pH		EC(μS/cm)		COD(mgO/L)		透視度(cm)	
	06年	平均	06年	平均	06年	平均	06年	平均	06年	平均	06年	平均
志木大橋(柳瀬川)	23.0		7.0		7.3		300		8以上		108.0	
栄橋(柳瀬川)	21.5		7.5				290		8以上		74.6	81.6
袋橋(新河岸川)	18.0		7.0		7.1		240		4		18.7	
いろは橋(新河岸川)	18.0		7.0				240		4		4.8	27.1
宮戸橋(新河岸川)	20.0		7.5		7.5		270		334.0		8.8	33.1
秋が瀬取水堰(荒川)	20.0		8.0		7.9		141		179.4		2	2.4
こもれびのこみち湧水	16.5		6.5		6.7		197		247.4		2	1.6
赤野毛排水路	19.0		8.5		8.4		300		366.0		8	9.8

■ 過去5年間の結果から見る水質の特徴

柳瀬川 【志木大橋・栄橋】	透視度は非常に高いが、COD、ECは新河岸川より高く、見かけほど水質が良いとはいえない。※ 下水処理水の割合が多く、そのため水温が高い。河床は砂礫。流量は多く、流速は早く、低水路に砂礫の堆積が目立つが沈殿物は少ない。
新河岸川(柳瀬川合流前) 【袋橋・いろは橋】	透視度は最低だが、COD、ECは柳瀬川より低く、見かけほど水質が悪いとはいえない。※ 河床は泥質。柳瀬川に比べ流量は少なく、流速は遅く、沈殿物が多い。
新河岸川(柳瀬川合流後) 【宮戸橋】	概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示すが、透視度は低い。合流点より下流側は05、06年冬に河床の浚渫を行った。
荒川 【秋が瀬取水堰上流側】	ECは最低、CODも非常に低く水質は良いが、透視度はそれほど高くない。わずかにアルカリ性。東京都の水道原水で利根川から導水された水が大半を占める。
こもれびのこみち湧水	透視度は最高、CODは最低で非常に水質が良い。ECがそれほど低くないこと、水温が低い(年間一定)こと、わずかに酸性気味なことは湧水の特徴。
赤野毛排水路	EC、COD共に最高で水質は悪い。アルカリ性。平均では分からぬが年により数値のばらつきが多い。雨水、農業排水、雑排水等、様々な水が混ざっていると思われる。

※ 埼玉県による BOD 測定の過去5年間(2001~2005)平均は、栄橋 2.94、いろは橋 3.78 で、柳瀬川の方が良い結果になっている。

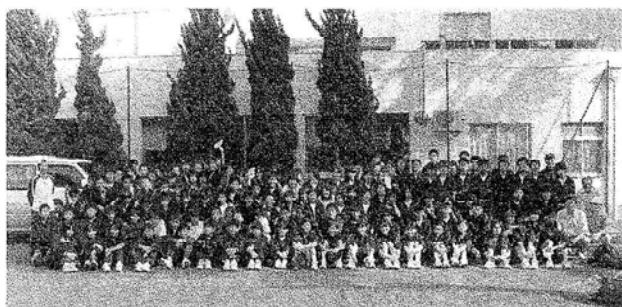
7/14
(日)

オオブタクサ抜き取り作戦

志木中学校の生徒さん達による、ボランティア活動の「オオブタクサ抜取り」は、1998年に始めて今年で9回目を迎えました。

オオブタクサは、1952年に静岡県の清水港で最初に発見されてから、この50年で全国に急速に繁殖しました。一年草ですが、4月に芽吹いてから8月には高さが3メートルにも達し、従来の植物を急速に駆逐してしまいます。

柳瀬川の志木鉄橋からその下流の高橋にかけ



ての右岸は、刈り取りの成果でほとんどオオブタクサは見られません。一方、志木大橋付近や志木市役所がある栄橋付近では、身の丈を超える3メートルもあるうかというオオブタクサが密生しています。

オオブタクサは、風媒花のため昆虫も寄らず、8月から9月にかけて大量の花粉を飛ばし、秋の花粉症の原因となっています。特定外来生物に関する法律でも、アレチウリとともに駆除すべき対象として指定される方向にあります。

志木中学校の生徒さんたちにはすっかりこのボランティア活動が定着し、今年も約150名の生徒さんが参加し、暑い中汗を流して抜き取りを行いました。生徒さん達にはこの活動をとおして、少しでも地域の自然を自分達の手で守る気持ちを持って貰えたらと願っております。

(山崎 光久)

報告

「西原斜面林の手入れ&自然観察」の活動から

夏の西原斜面林と堆肥づくり

夏の西原斜面林では様々な虫たちを観察できました。セミしぐれの林の中をクロアゲハやカラスアゲハが飛び交い、クヌギの樹液にはサトキマダラヒカゲ、キタテハ、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、カナブン、カブトムシ、スズメバチ等が群がっていました。

現在、東上線寄りの区域で整備作業をしていますが、前号で報告したように、密生していた常緑中低木を中心取り除いた結果、林の中はかなり明るくなりました。夏になると周囲にクズやカナムグラ等がはびこります。これはマント群落・ソデ群落といって林の環境を守る働きのあるものですが、周囲の歩道も埋め尽くしてしまうので適度に刈り取っています。また大型外来種のヨウシュヤマゴボウやオオブタクサ等も取り除いています。刈り取った草や伐採した樹木は全て林の整備に利用しています。斜面の中の散策路づくりでは、土壌が流れないように

地盤自体はいじらずに、こうした草木を少しづつ堆積して平らな路をつくっています。つまり堆肥でつくった路です。更に、散策路の脇には枝で囲った落ち葉プールをつくり（現在、大小合わせて7つ）、森の落葉だけでなく近隣のものも含め腐葉土にしています。（天田 真）



7/16
(日)

こどもとおとの自然塾（3）

お魚と遊ぼう



曇り空のちょうどいい天気の中、志木中学校の前の柳瀬川土手に、子供34名、大人22名、スタッフ13名と総勢69名が集まる大イベントとなりました。

前半は、柳瀬川右岸側（志木市側）の浅瀬で少し早く流れる所で、水質の指標となる「水生生物調べ」をしました。ふだん川の中の石裏を観る事などほとんどない方々ばかりで、最初のうちは気持ち悪がっている参加者もいましたが、徐々に面白くなってきたようで、時間になつても夢中で探していました。水生生物からみると、【少しきたない】～【きたない】にかかる生き物が多く、柳瀬川の水質は「きれい過ぎず、きたな過ぎず」といった所でしょうか。

後半は、魚がたくさんいそうな草むらがある柳瀬川左岸側（富士見市側）に、川を渡って移動し、魚捕りをしました。川渡りの前には、ドライスーツに身を包んだ小島さんによる“川に

流される実演”が行われました。浅瀬でも流れが早いと、みるみる下流に流されていく姿に驚かされました。ドキドキわくわくの川渡りも、ライフジャケットを着た子どもたちは、とても勇ましかったです。

魚捕りをした所には、沢山のハグロトンボが飛び交っていて、みんなの目を和ませてくれました。夏休みを前に、子どもたちにはとてもいい体験が出来たと思います。安全管理に注意しながら、夏休みは思う存分「ミズガキ」になって欲しいと思いました。
(伊藤 智明)

<捕れた生き物たち>

【お魚】

ナマズ、オオクチバス、ヌマチチブ、ウキゴリ、モツゴ（クチボソ）、ドジョウ、ボラ、ギンブナ、ウグイなど

【水生生物】

テナガエビ、スジエビ、ヌマエビ、アメリカザリガニ、シマイシビル、シジミ、アメンボ、コオニヤンマのヤゴ、ガガンボの幼虫、トビケラの仲間など

8/19
(土)

こどもとおとの自然塾（4）

トンボとチョウを見てみよう

朝から気温がぐんぐん上昇する好天気に恵まれ、今年の「トンボとチョウを見てみよう」が始まりました。PR不足で、参加した親子はたつた1組でしたが、スタッフと一緒に虫探しに出掛けました。

いろは親水公園付近は、新河岸川の川原と斜面林を含んでおり、川原に住む昆虫と林に住む昆虫の両方が観察できる絶好の空間です。

今年はチョウが多く観察され、ツマグロヒヨウモン、ルリタテハ、サトキマダラヒカゲ、ゴマダラチョウなど10種類を捕虫網で捕まえ、クロアゲハやコミスジなど7種類の飛ぶ姿を見る事が出来ました。トンボはノシメトンボ、シオカラトンボなど5種類を観察できました。

チョウのツマグロヒヨウモンはもともと関東地方より暖かい地方に生息するチョウですが、この2～3年埼玉県でも普通に見れるようにな

り、地球の温暖化の進行を窺わせます。

また、今年はハバチの仲間が大量に発生し、サクラの葉がひどい虫食い状態です。私達はこどもとおとの自然塾を通して、少しでも多くの人たちに自然を守る大切さを知ってもらえばと願っています。
(山崎 光久)



6/6
6/7

学校プールからのヤゴ救出作戦

●6月6日(火) 志木小学校

1年生140名 救出ヤゴ 2,874匹

●6月7日(水) 志木第二小学校

2年生118名 救出ヤゴ 3,862匹

今年も学校プールの大掃除を前にして、プールのヤゴを助け出す大作戦を実施しました。幸い両日とも天候にも恵まれ予定通り行いました。

最初に、安全・事故防止の注意の話の後、全員で水を抜いて浅くなつたプールに入ります。みんな元気いっぱいにヤゴを捕らえます。中には怖くて触れない子も、スタッフの後について分けてもらいます。

ヤゴ取りの後、教室に戻ってスタッフ5名がそれぞれ分担して「ヤゴってなに?」の紙芝居、ヤゴの衣装をまとつて「ヤゴの足は何本」「ヤ

コの餌のとり方は」などを身振りや仕草で説明、容器と割り箸で「ヤゴへの餌の与え方」「容器の水の代え方」の説明等、約40分位の出前授業も合わせて行いました。

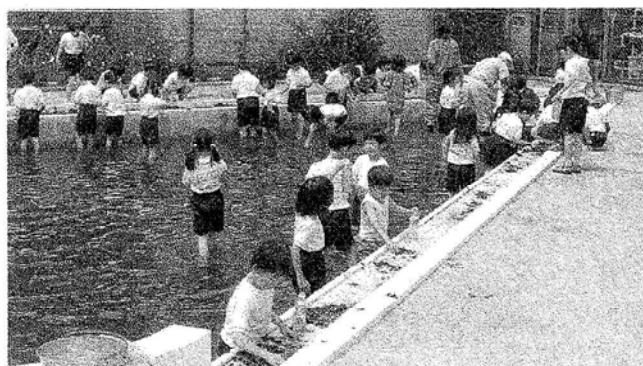
先生には前もって、指導用の冊子『とんぼにな～れ』を手渡していますので、子供達には家に持ち帰ったヤゴが何匹トンボになって飛び立つたか先生に報告しよう、トンボがたくさん暮らすまちにしよう!と約束をして終わりました。

(武藤 邦昭)

下校時の子等の手に手にヤゴの瓶

鎌田 敏子

志木小学校の児童の姿を詠んだ句を寄稿していただきました(山口美智江)



↑6月6日(火) 志木小学校



↑6月7日(水) 志木第二小学校

柳瀬川水族館

短信

オオクチバス

柳瀬川水族館の調査で、7月のオオクチバスの稚魚は35mm、8月は70mmへ。喰つたなということがわかります。数年前から時々捕獲されていましたが、最近、確実に捕れるようになっており、繁殖しているようです。

柳瀬川にとっての移入種で繁殖していると思われるものは、オオクチバスをはじめ、カダヤシやグッピー、たまにブルーギル、ハス、カワムツB、タイリクバラタナゴなども確認され、全魚種31種の3割も占めています。こうした魚は、他の魚の放流の際、混入するこ

とをはじめ、釣り人の密放流で生息域を広げており、在来の魚が絶滅に瀕してい

るそうです。水質がきれいになり、川で遊ぶ子も戻ってくる中、水辺を覗くと外来種だけ。この川は日本?関西?という風にならないか心配です。

(小島 敏文)

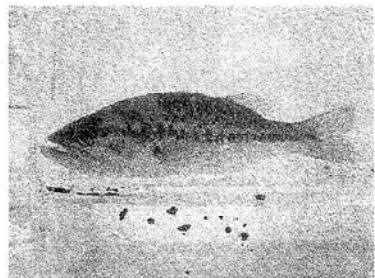
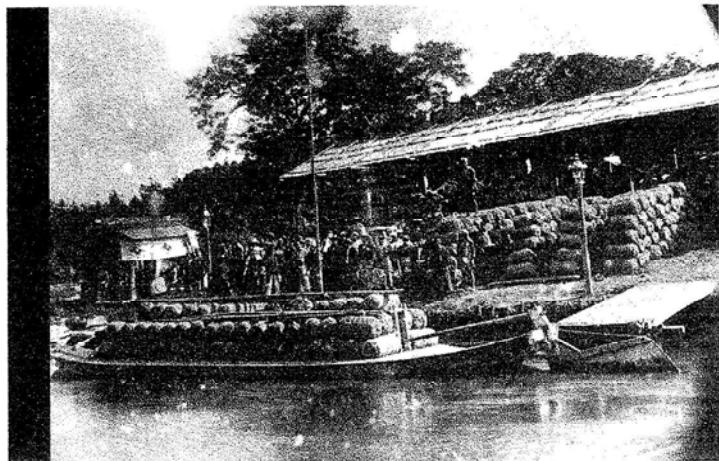


写真: 天田真

治で日露戦争中、穀物の輸送
忙しきつた志木河岸（明治37年）
ふるさと写真集



江戸時代後半から大正期にかけての志木は、商業の町として今日では想像もできないほどに繁栄を極めた。その最大の要因は、江戸と川越方面との物資交流用の運河として整備された新河岸川沿いの河岸場を擁していたからであることは申すまでもない。

新河岸川の舟運は、寛永15年（1638）正月の川越大火により焼失した東照宮と喜多院を再建するための資材を江戸から運ぶのに最も効率的な手段として着目されてから本格的に始まった。川越に物資を運ぶための便を図って、当時としては川越に最も近い場所に河岸場を新設したことから、新河岸の地名、更には新河岸川の名も誕生したのだ。

新河岸川は、大正9年の河川改修が行われるまでは、現在の朝霞・和光両市の境界辺りで荒川と合流していたが、新河岸からこの合流地点までに合計20ほどあった河岸場の中で、後背地域の広さと積み降ろしの貨物の量の点で群を抜いていたのは、上・下の新河岸と引又河岸（明治7年以降は志木河岸）だった。

新河岸川では、川越方面からは米穀類、材木、薪炭、ソーメン、ゴザ等、江戸からは肥料、塩、太物、小間物、雑貨、綿糸、石材等が主に運ばれた。引又河岸で荷揚げされた貨物の種類は沿岸の他の河岸場とさほど違いはなかったが、江戸方面にこの河岸場から運ばれたものは、近隣からの米穀類・小麦粉、青梅の薪炭、所沢の壁土、所沢・村山・八王子の織物、甲府の葡萄・生糸、暮末以降は所沢・三芳方面からのさつま芋が特に目立った商品だった。甲府から大菩薩峠を経由して商品が送られてきたことは、引又河岸の取引範囲が当時いかに広大であったかを示すものだ。このほか、特筆すべきは、熱海から樽詰めにされて送られてきた温泉が引又河岸を経由して町内や所沢方面の分限者宅に届けられ消費されたことだ。新河岸川では、このよう

に、長い間、貨物の運搬が中心だったが、天保年間（1830～40）からは乗客も運ぶようになった。

ところで、河岸場で貨物の積み降ろしをするには専門の業者が必要だった。これが回漕問屋で、引又河岸では、江戸初期以来、井下田・三上（明治13年からは

高須）の2軒の問屋が営業していた。明治10年代前半に自由民権運動の旗頭として活躍した三上七十郎、東上線の誘致に大きく貢献した井下田慶十郎はいずれも回漕問屋の出身で、その先見性は時代の流れを敏感にキャッチし得る職種への従事によって培われたのだろう。

新河岸川を往来する船には、飛び切り・早船・並船の3種類があった。並船は荷物が満杯になるまであちこちの河岸場に寄って荷物をかき集めたので、物凄く日数がかかったし、積載する貨物は重量があって、カサばり、廉価なものだったが、定期船の早船・飛び切りでは、カサばらずに、軽量・高価なものになっていく。引又から浅草の花川戸まで早船で15時間、飛び切りで13時間を要した。なお、乗客を乗せたのは早船に限られていた。

新河岸川の舟運は、明治・大正にかけ各地に鉄道が開通して、貨物の運送が鉄道へと転換していくようになったこと、大正9年からの河川改修による水路の直線化が水位を下げてしまったことにより、水運の続行が難しくなり、遂に昭和6年に埼玉県から通船停止令が出て300年に及ぶ新河岸川の舟運にピリオドが打たれてしまった。

新河岸川舟運の恩恵を

神山 健吉

（志木市文化財保護審議会会長・志木いろは市民大学学長）

寄稿

カルガモ観察2年目を迎えて 志木小学校・屋上ビオトープから

昨年、初めて志木小にカルガモが飛来してから、今年も親鳥が我が屋上ビオトープにやってきました。

昨年はカルガモの子ガモは1羽だけしか育たなかったことを教訓に、今年はビオトープ委員会・子どもエコクラブを中心にたくさんの活動をしてきました。特に天田さんを始め、エコシティ志木の方々には、毎週、委員会クラブの時間に来て頂き、カルガモの生態やその保護の仕方やビオトープの保全などたくさんのこと教えていただいています。それをもとに子どもたちと活動内容を考え、ビオトープの小川の清掃、スズランテープやCDを使ったカラスよけの制作、木製デッキの穴ふさぎ、カルガモの観察、カルガモの給餌（狭いスペースで餌が足りないため）の活動につなげています。その



甲斐あって今年は7羽の子ガモが育ち、その内の5羽が8月13日（日）に飛び立つことができました。

夏休み観察を続けているビオトープ委員会の子どもたちは、感動して残った2羽も無事飛び立てるようにがんばって活動を続けています。2学期からもエコシティ志木の方たちと更にがんばります。

（志木市立志木小学校 神永 仁恵）

7/29
(土)

竹の子エコクラブ「柳瀬川へ行こう」

毎夏、当会が協力している三芳町竹間沢公民館“竹の子エコクラブ”的イベントで、夏晴れの中、志木大橋の柳瀬川土手に、子供33名、大人18名、スタッフ5名の総勢56名が集まるイベントとなりました。

このイベントは、こどもとおとの自然塾「お魚と遊ぼう」と同様、“水生生物調べ”、“川渡り”、“魚捕り”が中心です。

川渡りでは、川の恐さも体験して欲しいという要望から、大人でもヒザぐらいまである深さもある所を渡る、本気のハラハラドキドキが出来る貴重な体験となり、何とかみんな無事に渡ることが出来ました。



魚捕りでは、6年生の子が大きなウナギをゲットし、一躍ヒーローとなりました。こうした魚たちがたくさん捕れるような、キレイで棲みやすい川になって欲しいとツクツク思いました。

魚捕りの後は、NPO法人エコシティ志木の人たちによる「投網」の実演が行われ、見事ウグイを捕ることができました。

（伊藤 智明）

<捕れた生き物たち>

【お魚】

ウナギ、ドジョウ、モツゴ、ウキゴリ、ヌマチチブ、マハゼ、ウグイ、トウヨシノボリ、ボラ、グッピーなど

【水生生物】

スジエビ、ヌカエビ、シマイシビル、ミズムシ、トビケラ類、カゲロウ類など

※投網の使用については、新河岸川水系水環境連絡会を通じ、埼玉県より「特別採取許可」と、流域漁協からの承諾を受けています。

生活クラブ生活協同組合 〈志木支部〉

生活クラブと聞いて皆さんは何をイメージされるでしょうか。私たち志木支部は館地区・宗岡地区・志木地区と三地区合わせて、現在450名ほどいます。組が1つ、班が24ヶ、8点ルールの戸配と形はいろいろですが、安全でおいしい食べ物を求めて消費財を共同購入しています。

作る人も大事、食べる人も大事ということで、30年余りの歴史の積み重ねの中で生産者の顔が見えるという関係を作り上げています。

生き活き交流会

その最大の行事が秋に行われる生き活き祭りです。
生産者と消費者の交流会です。
たくさんの生産者が一同に集まり、色々な試食があります。
生産者の直接の話が聞けます。
消費者の思いを伝える事も出来ます。
時間を少し作って覗いてみませんか、お誘いします。

生き活き交流会

日時：9月24日（日）10時～15時
場所：さいたまスーパーアリーナ

安全 健康 環境

更に「安全 健康 環境」が生活クラブの原則です。
身近なことでは、Rビン（リターナブルびん）の回収（牛乳びん、調味料のびん等、回収して繰り返し使っています。）
P袋（ピッキング袋）の回収（配達の際に使われているピッキングのビニール袋を1回使用でなく、一手間かけて回収して再生産して利用しています。）

7月は シャボン玉月間

せっけんはいのちをおもうやさしいきもち
この7月はシャボン玉月間でした。
水環境の保全を考えて石けんを使いましょうという強化月間でした。
今年も志木市長からのメッセージがあり、それをポスターと一緒に掲示しました。

一人一人の小さな努力がつながって結果が得られるのだと思い、皆で協力して、持続可能な循環型社会をめざし、地球の未来を守りたいと思って活動しています。

生き物情報は Tel/Fax 048-471-4275 Email : qwj11624@nifty.com(毛利)へ
ホームページ⇒<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info-2.html>

《鳥類》

カルガモ (ヒナ7+♀1) →6/6(火) 志木小・屋上ビオトープ【山崎ほか】

キジ♂・コチドリ→6/17(土)午前、水谷たんぽ【山崎光久】

シジュウカラ (幼鳥5~6) →7/15(土) 志木市柏町【高橋和夫】10日位
前から我が家家の梅の木などでチィチィと元気に飛びまわっています



↑カルガモの親子(6/6毛利)

《昆虫》

ハグロトンボ→7/15(土) 志木市柏町【高橋和夫】我が家の庭に3年前か
ら毎年来るようになりました

アブラゼミ (声) →7/26(水) 朝霞市宮戸【毛利将範】

ミンミンゼミ (声) →7/27(木) 朝霞市宮戸【毛利】



↑コチドリ(6/17山崎)

《哺乳類》

タヌキ (4) →7/15(土) 柳瀬川・味場前の河川敷【高橋和夫】10日位前
親1匹、子3匹のタヌキがいました：高野光治さんの情報

タヌキ (6) →7/31(月) 柳瀬川河川敷【高橋和夫】私は4匹いるのを確
認していますが、6匹いるとの事です

タヌキ (子6) →8/1(火) 柳瀬川・ワイス裏【武藤邦昭】オオブタクサの中
タヌキの子が6匹おり、子犬くらいの大きさに育っています

《は虫類》

スッポン (1) →6/6(火) 柳瀬川・富士見橋下流左岸【毛利】志木小学校
の総合学習の時間にゲット。体長7~8cm程でした

環境 ひとくちメモ(2) 伊藤 智明

ダメ! 野生動物(野鳥)へのエサやり

公園などで、キレイな野鳥やカワイイ動物を目になると、ついエサを与えたくなってしまいますね。でも、エサを与えることは本当に良いことなのでしょうか？

いま、野生動物(野鳥)へのエサやりによって様々な問題が増えてきています。

例えば・特定種の生息数が増え、自然界のエサだけでは生きていけなくなり生態系のバランスが崩れる。・自分でエサをとる努力をしなくなり、自然では生きていけなくなる。・ファン害(悪臭・病害等)や鳴き声(騒音)などの問題が増える。・人を恐れずエサを求めて人家周辺にやってくるようになり、食べ物を食い荒らすようになる。

また、エサを与えているつもりはなくても、同様の行為となることがあります。例えば・

ゴミ出しの時間を守らない。ゴミ袋の中にある食べ物が外からよく見える状態でゴミを出す。・ペットが食べ残してしまうほどエサを与える。・木の実や農作物などを収穫せずそのままにしておく。等々です。

【野生動物と共生していくための3か条】

- (1) むやみに近づかず、静かに見守る。
- (2) 野生動物は人間のペットではないことを肝に銘じる。
- (3) 野生動物が自然の中で暮らしていくように自然環境を守る。

○出典：埼玉県パンフレット「野生動物にエサを与えないで」より

○参考ホームページ：環境省 自然環境・自然公園「鳥獣保護関係」

<http://www.env.go.jp/nature/>

★会員状況

8月21日までに2006年度分更新済みの会員は、個人57、団体2、賛助1です。

■カンパありがとうございました

木村 優子 さん

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。



★2006年度分、更新まだの方は継続をよろしくお願いします。

★宛名シールに会費の有効期間が書いてあります。チェックしてください。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な協力団体

いろは遊学館利用者の会
黒目川に親しむ会
グループぼんばこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木NPOネットワーク会議
志木おやこ劇場
志木市コミュニティ協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まるごと博物館「河童のつづら」

<http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/>

11/12(日)

志木まるごと博物館 お宝交流シンポジウム（第4回） 川にかかわる自然と文化のまちづくり

市内には3本の川が流れています。川にかかわる自然や文化を活かしたまちづくりとは？
志木をまるごと博物館にして、どんなことができるのか、具体的に考えるシンポジウムです。
多数のご参加をお待ちしています。

◆志木まるごと博物館 お宝交流シンポジウム（第4回）

「川にかかわる自然と文化のまちづくり」

【日時】 11月12日（日） 13時30分～16時30分

【会場】 いろは遊学館 2F「視聴覚室」（予定）

【基調講演】

「川にかかわる自然と文化と流域経営（仮題）」

講師：恵 小百合さん（江戸川大学社会学部教授・NPO法人荒川流域ネットワーク代表理事）

【話題提供】 志木の崖線ウォーク／志木の野火止用水ほか

【参加費】 500円

【懇親会】 終了後に「地粉手作りうどん懇親会」（参加費1,000円程度）を予定しています

【主催】 NPO法人工コシティ志木

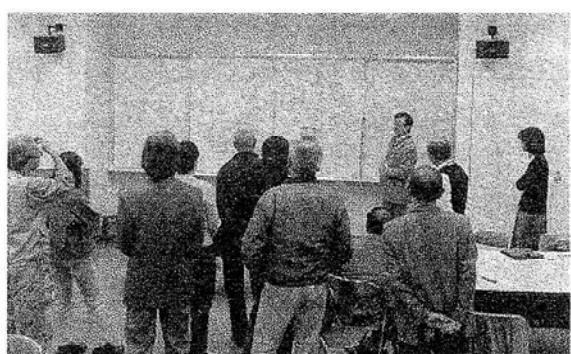
（財）埼玉県生態系保護協会 志木支部

【お問合せ】 048-471-4275（毛利）

【後援】 志木市・志木市教育委員会予定

《第3回（05/11/27）の様子》

テーマ=今に残る志木の歴史と自然「みんなでつくろう !!
志木のお宝マップ」



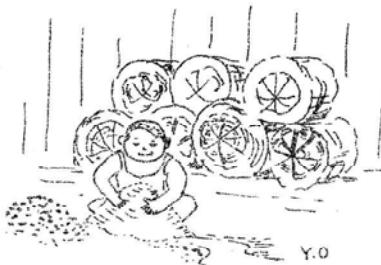
「親の恩子知らず」

投げ合つて面白そうに遊んでいた。

コラ：と脅かしてやろうかと、3人に話したら喧嘩になると面倒だから止めべー。もし見えてーと、垣根の外から覗いていた。暫くすると、悪鬼鬼たちは、俺たちの見ているのに気がつき、更に得意そうに荒らした。オイ、帰るべー。俺たちのせいにされると困るものな…、と話ながら、缶カラチンに入っているクワガタ・カブト虫を4人で分け家路に着いた。

それから数日後の事。親父が、征男チヨット来い。オメー、稻荷山の畠で何か悪戯しなかつたか…、と聞いてきた。直ぐに分つたが、知らねヨーと言つた。ホントか？ ホントだよ…。親に向かって嘘つくのか…。知らねつたら知らねヨ…。

親父は怒つた。○○さんがオメーの姿を遠くから見たと言つてゐるど…。ソンジヤー何をヤツタと言うんだよ。○○さんがナ、スイカ畠を荒されたので弁償しろと押して來たんだ。俺は「知らね：」と言い張つた。ショウガねー野郎だ。思い出すまで藏に入つていろ！ と言うなり藏に放り込まれ、ガシャつと鍵を掛けられた。



一かけ二かけて三かけて…♪ 四かけて五かけて橋をかけ♪ と、歌いながら虫取りの帰り道、薄暗くなつてきたスイカ畠に何かが動いていた。何と東の悪鬼鬼が数人、スイカ畠の中を駆けずり廻つていた。

畠の周りは篠竹や棒で囲い、そこにインゲン豆などの蔓の作物を絡ませ、中に入れないとどうやつて入つたのか、

餓鬼たちは、食べるのもなく、ただスイカを敲いたり、蹴飛ばしたり、蹴飛ばしたり、

そのうち、ウトウトと眠つた。
それからどの位経つたのか…。外からの話し声は聞こえるのが、何時までたつても助けに来てくれないので頭にきた。俺は悪いことしていらない、なんで藏の中に入れられたのか…。藏の中では、なんとも暇だ。そこで俺は山のようく積まれている、米俵の一つに穴を開け米を出した。カマスに入つて大麦も手でシャクイ出し床に、白い米と茶色の麦で山を作つたり、床の上に絵を描き遊んだ。その内グシャグシャに搔き混ぜ、また出しては絵を描き遊んだ。

そのうちに外からガシャガシャと鍵を開ける音がして、おばあちゃんの顔が…。オメー随分おとなしかつたな…と言つたが、俺、フレンと怒つた顔して外に出た。

その時だ…、おばあちゃんが、征男大変な事しでかしたな、と声を上げた。

米と麦、どうして元に戻すべー、とおばあちゃんは嘆いた。征男、父ちゃんには黙つてゐるから明日は米と麦の選り分け手伝え。イイナ…、と言つた。俺、ばあちゃんには本当に弱い。怒られると必ず助けてくれるから。

翌日、学校から帰るのをおばあちゃんは待つてゐた。

オメー良く悪戯思いつくよ、この頭を勉強に少しでも向けてみろヨと言ひながら、米麦の混ざつたものを、笊の中に入れ、米撲機の上から流した。2種類の米撲機を通すとほとんどの米と麦は選別出来たのだが、最後は、箕に広げ、手で一粒一粒選別して終わつた。

その頃は、俺とおばあちゃんの影は夕日で、長くながく伸びていた。

おばあちゃん…、俺「大好き」と言つて駆け出した。

(終)

エコシティ志木の活動が紹介されました



(財)あしたの日本を創る協会が発行し、全国の地域づくり団体、自治会・町内会等の活動紹介や専門家の論文などを掲載している『まちむら』(季刊50, 000部)から取材があり、「実践と提言の両輪で環境のまちづくりを進める」と題して、当会の紹介記事が掲載されました。

【天田 真】

編集後記

◇エコシティ志木というと、自然環境をまもる団体というイメージが強いのですが、ゴミや福祉についても地道に活動しています。まちづくりという視点から身近な自然や福祉やゴミ問題を考えています。

◇そんな当会の活動を発信する、通信などの記事を書くボランティアスタッフを現在募集中です。（ふくろう）

エコシティ志木通信
第43号・2006年9月1日
発行

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田真)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています